

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

佐藤繊維株式会社

寒河江市にある佐藤繊維株式会社の若手社員、筒井咲弥香さん取材しました！
筒井さんは、山本学園高校衣創科を卒業後、2012年に入社しました。
現在は、ニット部縫製課で勤務しています。

(1) 仕事内容編

——現在の仕事内容について教えてください。

私は今、ニット部縫製課で課長補佐という役職についています。ニットを縫製する仕事に加えて、課全体の仕事がきちんと回っているかを管理する仕事をしています。

縫製課は、M.&KYOKO や FUGA FUGA といった自社ブランドも扱いますし、他社ブランドの製品もあります。ラインに流れてきたものをやります。

縫製課には20人ほどいるのですが、その中にはベトナムとモンゴルからの研修生もいます。研修生は自分たちの国でもある程度経験している方が多いのですが、お互いがいた環境や言葉が違うので、なるべくわかりやすい言葉でコミュニケーションをとるようにしています。



——課長補佐になったのはいつからですか。

今年の春からです。最初は「んん〜…、やれるのかなあ」という不安しかなかったですね。ですが、実際に管理の仕事をしてみると考え方が変わりました。1人1人の意見をなるべく参考にしながら、みんなに寄り添っていけるようになりたいと思いましたね。

——研修生に寄り添うために何か取組はされているんですか。

今は出かけられないですが、コロナの前は、近くの体育館でみんなでバスケットボールとかドッジボールをしたりして、距離を縮めるようにしていました。

——筒井さんの目から見て佐藤繊維のここがすごいというのはどこですか。



海外のブランドとも取引をされていて、国内だけじゃなくて先を見通して動いているところだと思います。

私の作っているものが海外のブランドで扱われていても、自分では実感がありませんが(笑)。社長がしている商談だとか、糸の原料を手配する話を聞いて、山形にいても世界とつながっている感じがしますね。

(2) 職場編

——衣創科を卒業と伺いました。もともと服を作る仕事をしたいと考えていたんですか。

そうです。高校でミシンをちょっと覚えて、自分に合っているなあと思って就職先を選びました。縫製という仕事は、自分が縫ったものがそのまま商品に直結しているので、そこに魅力を感じたからです。



——就職先を佐藤繊維に決めた理由は何だったのですか。

社長がすごく熱い方で、それが入社を決めたきっかけですね。採用面接のときに、志望動機とか必死に練習したんですけど、社長面接できかれたのは「部活は何やってたの!？」で(笑)。そういう、かしこまらない感じの社長なんですよ。



——社長とは社内でもよく顔を合わせるんですか。

社長は出張がとても多い方で、年の半分くらいは社外にいる感じです。基本的には週1回全体朝礼がありまして、社長と顔を合わせる機会になっています。

——高校生のときからニットを作っていたのですか。

高校生のときは、ニットは全然やっていませんでした。ブラウスを作る検定とか、浴衣を半身だけ作る検定を受けていましたので。

——ニットの縫製には、特別な技術が必要なんですか。



ニット製品はシャツのような布帛製品(注:織物のこと。ニット(編物)以外の繊維製品)と比べて伸び縮みするので、縫製するときに糸が切れないように注意しています。

当社の製品はモヘアなど繊細な糸を使っているものが多いので、特殊な糸が編み込まれていて表面がデコボコしているものの縫製はなかなか難しいです。1人1人が作業に集中していないと糸が切れてしまうので、みんなが注意しています。

——技術を身に付けるための研修制度はどういったものがあるのですか。

新入社員は1か月ミシンの研修を受けてから現場に配属されて、その後の1か月はいろいろな部署を回って研修します。研修の段階で向き不向きがわかってくるので、適性のある仕事をみて配属先が決まります。

(3) ある日の過ごし方編

●8:00【出社・作業開始】

まず、1日の作業内容について、班のリーダーと段取りを確認します。

新人が作業に苦戦していないかなど、周りに声をかけをしたりして進めます。



●12:00【お昼休み】

ほぼ毎日、お弁当を持参して食べています。

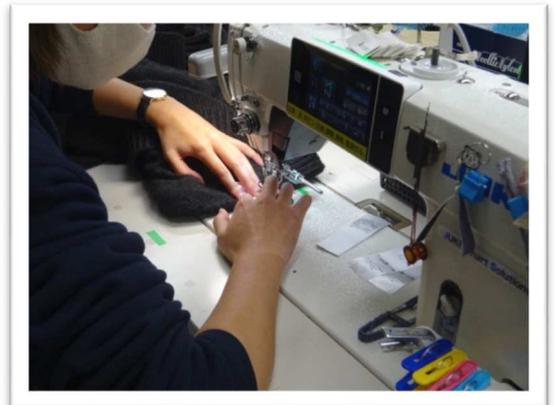
●13:00【午後の部、作業開始】

集中力を継続するために、15時の休憩ではコーヒーを飲みます。



●18:00【退勤】

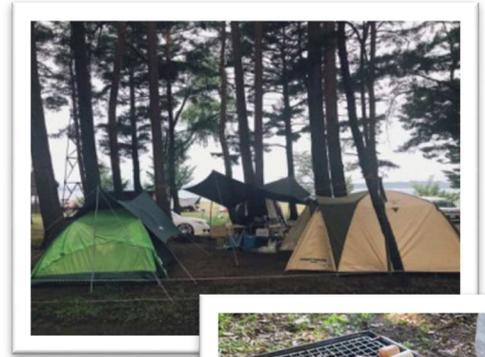
この日は少し残業をしました。退勤後は地元の友人とご飯にいたり、遊んだりしてリフレッシュします。



(4) むらやまでの暮らし編

——村山地域で就職を決めた理由を教えてください。

私は山形市出身で、もともと県外に就職するという考えがなかったので、はじめから県内で就職先を探しました。やっぱり家族が身近にいるのが心強いと思ったので、県外に就職することは考えていなかったです。



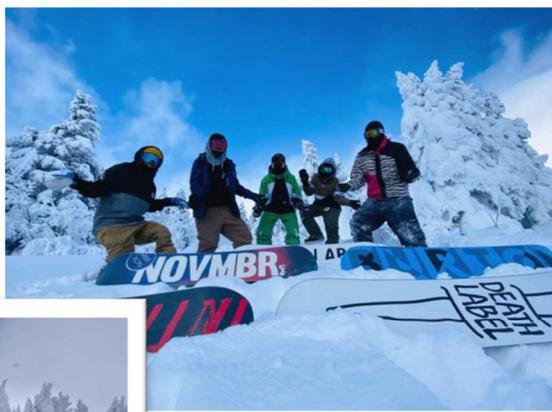
——県内で就職して良かったと思うことはありますか。

週末に、地元の友達と遊べる環境にあるところですね。

私はキャンプとか、アウトドアなことが好きなんです。上山の坊平高原とか、寒河江だったら「いこいの森」とかでキャンプします。

冬はスノーボードをします。職場で一緒に出掛けることもあって、スノーボードは社長もやっているの、年末年始に行ったこともありましたね。スキー場は東根の「ジャングル・ジャングル」がおすすめです。

——退勤後はどのように過ごしているんですか。



退勤後は地元の友達とごはんに行ったり、「みはらしの丘」とか「悠創の丘」とか夜景スポットに行ったりしますね。私にとってのストレス解消法は、やっぱり人と話すことです。冬のスノーボードもかなり発散できます。



(5) まとめ編

——今後、お仕事を続けていくうえで目標はありますか。

今後の目標は、社員から信頼される、気軽に話しかけられる話しやすい管理職になりたいなあって思っています。みんなの悩み事を解決できるようになりたいですね。

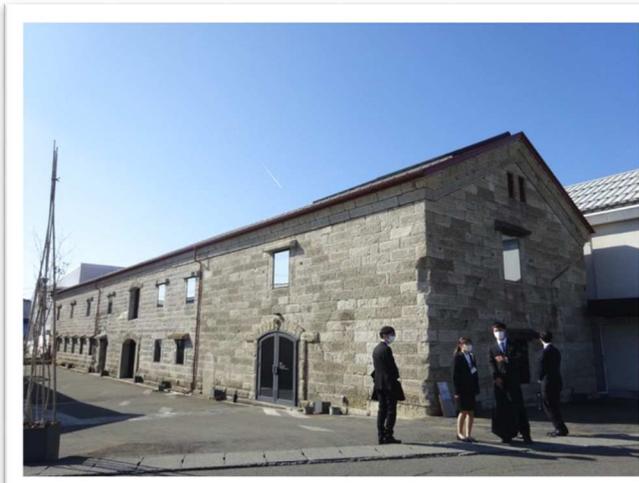
あと、私は入社からずっと縫製をやってきて、ミシンで仕事をしています。ここまできたら現場職を極めたいとも思いますね。



——佐藤繊維には女性の管理職は多いのですか。

そうですね。縫製課では課長も女性です。職場内の意見の違いを上手くまとめて仕事が進むようにしていかなければならないので、そういうバランスを取るのが大変だなと思います。

——これから就活をする学生にアドバイスをお願いします。



自分の好きなことを極める、自分が何をやりたいのか明確にしてから就職活動をやった方が、具体的に動けるのかなぁと思います。

———ありがとうございました！

筒井さんがタグ付けをしている様子を見せてもらったのですが、本当に一瞬で、まばたきをしていたら終わってしまいました。中間管理職としてまわりの作業に目を配りつつも、正確な仕事をされていてすごいと思いました。

私も生まれてからほぼ山形県内で生活していますが、初めて耳にしたアウトドアスポットもありました。私はインドア派ですが、この機会にアウトドアにも挑戦してみたいと思えました。

【インタビュアー：

山形大学人文社会科学部 後藤愛・草木啓汰・久山拓真、大学院社会文化システム研究科 杜東超】

佐藤繊維株式会社

【Made in JAPAN こだわりのものづくり】

弊社は原料選びから糸づくり、ニット製品の製造まで一貫した、自社工場における Made in JAPAN のものづくりを大切にしています。自社で作りあげたこだわりの糸とその糸を用いた個性的な自社ブランド製品を発信しています。

★地域未来牽引企業

- ・所在地 山形県寒河江市元町 1-19-1
- ・設立 昭和 7 年 8 月
- ・従業員数 230 名（男性 77 名、女性 153 名）
- ・URL <https://satoseni.com/>